技術士　第二次試験　模擬答案用紙

受験番号		技術部門	部門
問題番号	H24　1-2	選択科目	科目
答案使用枚数	1 枚目　　枚中	専門とする事項	

○受験番号，答案使用枚数，選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。

1．工事施工前に速やかに実施すべき事項

廃棄物や有害物質による汚染が予測される土地で工事を行う場合は、速やかに次の事項を実施する。

1）土地履歴調査の実施

工事区域内の廃棄物調査までに、土地履歴調査を実施し、汚染の概要を把握する。

①廃棄物・有害物質の種類、量、範囲、深さ

②土地所有者、使用者、使用期間

2）周辺住民、関係機関への連絡通報

工事区域周辺住民や関係行政機関、公共用水域管理者に、予想される汚染の概要と、実施予定工事の内容を事前に連絡通報する。

3）廃棄物調査の実施

廃棄物調査を実施し、有害物質の種類、量、範囲、汚染の程度を詳細に把握する。同時に周辺水域の水質調査、環境調査も実施する。調査前には関係機関へ連絡を行う。

4）土壌調査の実施

工事区域内の土壌含有量調査、土壌溶出量調査、ダイオキシン類土壌環境基準調査を行うとともに、地下水汚染の有無の調査も実施する。

5）調査結果の周辺住民、関係機関への周知連絡

廃棄物調査、土壌調査の結果について、周辺住民、行政機関の環境部局、公共用水域管理者に周知連絡を行う。

●裏面は使用しないで下さい。　●裏面に記載された解答は無効とします。　24字×25字

技術士　第二次試験　模擬答案用紙

受験番号	
問題番号	H24　1-2
答案使用枚数	2 枚目　　枚中

技術部門	部門
選択科目	科目
専門とする事項	

○受験番号，答案使用枚数，選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。

２．工事施工に際し配慮すべき事項

汚染区域での工事施工にあたり、次の事項に配慮する。

１）工事区域への立入禁止措置

工事予定区域内への立入禁止措置を行う。有害物質の種類、濃度によっては、警察・消防に通報を行い、工事区域周辺についても立入禁止や避難の措置をとる。

２）有害物質の飛散・流出防止措置

工事区域内の地表面から、有害物質が飛散・流出し周辺環境へ影響を及ぼさないように、シート覆いや覆土による飛散流出防止措置を行う。

３）工法、構造の再検討

有害物質の種類、量、濃度、範囲によっては当初計画していた構造では安定性や耐久性が保てない場合があり、調査結果に基づき工法・構造の再検討を行う。

４）工程、工期の再検討

有害物質の処理に必要な期間を検討し、工程と工期の再検討を行う。工程の見直しによる工期内完成が困難な場合は、工期の延長も含めた検討を行う。

５）工事施工による有害物質の飛散流出防止措置

工事施工中に、掘削面などからの有害物質の飛散流出を防ぐため、掘削箇所に仮設工による飛散防止措置を行う。排水の流出がある場合には、有害物質の種類と濃度に応じた処理を行い、公共用水域への直接流下を防止する。

●裏面は使用しないで下さい。　●裏面に記載された解答は無効とします。　24字×25字

技術士　第二次試験　模擬答案用紙

受験番号		技術部門　　部門
問題番号	H24　1-2	選択科目　　科目
答案使用枚数	3 枚目　　枚中	専門とする事項

○受験番号，答案使用枚数，選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。

6）作業員の安全対策

作業員の安全確保のため、次の対策を行う。

①防護メガネ、防塵マスク、防護服を着用する。

②労働安全衛生規則に従い曝露作業時間を厳守する。

③必要に応じてガスマスク、空気ボンベを着用する。

7）施工前、中、後の周辺環境等のモニタリング

工事施工前に周辺環境の調査を行い、施工中、施工後のモニタニングを行う。異常を発見した場合には原因を突き止め、直ちに対策を行う。

8）汚染土砂の再利用の検討

有害物質に汚染された土砂が、分級・分別により再利用が可能な場合には、分別後の土砂について土壌含有量試験、土壌溶出量試験、環境基準調査を行い、全ての条件を満足する場合に再利用を行う。その際、利用部位と利用場所を明確にし、他の土砂とは区分して使用する。

9）有害物質および有害物質混じり土の処分

有害物質および再利用が困難な有害物質混じり土については、有害物質の種類に応じた適正な処分を行う。これらを場外に搬出する場合は、運搬中の悪臭や飛散により周辺環境に悪影響を及ぼすことがないよう、車両荷台へのシート覆いや、密閉型荷台車両による運搬を行う。

以上

●裏面は使用しないで下さい。　●裏面に記載された解答は無効とします。　24字×25字